

**平成23年ゴールデンウィークにおける主な観光施設等の利用状況について**

平成23年ゴールデンウィークに県内の主な観光地を訪れた観光客の状況について、次のとおりまとめました。

調査目的： ゴールデンウィーク期間中の観光客の傾向を調査し、今後の観光振興施策や観光事業関係者の事業展開の参考資料とする。

調査地点： 県内主要観光施設利用状況、市町村イベント等の動員数 65地点  
(参考調査)  
高速道路、有料道路利用台数調査

集計期間： 平成23年4月29日(金)～5月8日(日)の10日間

観光客数： **延べ1,300千人 (前年比 9万5千人減、6.8%減)**

※今年度から、早期に状況を把握できるよう、対象施設を絞った調査としました。

**1 概 況**

- 県内の主な観光施設・イベント(65地点)を訪れた観光客数は合計130万人で、前年より約9万5千人減少した(前年比は93.2%)。
- 今年のゴールデンウィークは、概ね好天に恵まれ、良好な行楽日和となったが、5連休があった前年と比べ、大型連休が構成しにくい曜日配列であった。
- 東日本大震災の影響による出控えが懸念されたが、自粛ムードの緩和等もあり、調査対象施設等全体の観光客数としては比較的微減にとどまった。しかし、団体ツアー客・外国人観光客の大幅減少や、物販関連の施設で伸び悩む状況もみられ、今後の県内観光については見通しが不透明な状況である。
- 本年の特色として、震災後の安全・安心志向の高まりや、長引く景気低迷により、近場の観光スポットで消費を押さえながら遊ぶ傾向が昨年に引き続き強まり、愛宕山こどもの国など家族で気軽に訪れることができる身近な施設や、県フラワーセンター・湯之奥金山博物館・富士山博物館などテーマ性のある観光施設が、比較的好調であった。
- 一方、バス旅行による団体ツアー客を有力顧客としている施設については、依然として震災による消費者心理の落ち込みの影響を引きずる形で客数が減少し、苦戦を強いられた状況も窺えた。

## 2 各圏域別の状況

※太字の施設は入込数記載（別紙「資料」）

### 【峡 中】

- ・ 峡中圏域の対象施設等に係る観光客数は、前年比 97.1%と微減となった。
- ・ 遠出を避け、安心感のある近場で過ごそうとする傾向を反映してか、「**愛宕山こどもの国**」などが順調な伸びを示した。
- ・ 一方、震災の影響で、特別展開催中止を余儀なくされた「**県立美術館**」や、節電努力によりイベント縮小を選択した「**甲府・国中地域地場産業振興センター（かいてらす）**」など、社会情勢に直接影響を受けた施設もあった。
- ・ 全体としては、家族向けレジャー施設の集積の強みが活かされ、震災の影響を最小限にとどめ観光客確保がある程度実現されたものと見られる。

### 【峡 東】

- ・ 峡東圏域の対象施設等に係る観光客数は前年比105.5%となり、峡北圏域とともに増加となった。
- ・ 顕著な伸びを示した「**勝沼ぶどうの丘**」や「**笛吹川フルーツ公園**」では、いずれも「震災後の自粛ムードの緩和」を要因に挙げている。このほか、安定した顧客層をもつ温泉施設についても堅調に推移した。
- ・ 一方、震災後の団体ツアー客の減少により、こうした顧客層への依存度が高い施設は、軒並み減少となっている。

### 【峡 南】

- ・ 峡南圏域の対象施設等に係る観光客数は、前年比 96.7%と微減となった。
- ・ 堅調な伸びを示した「**湯之奥金山博物館**」「**道の駅富士川ふるさと工芸館**」では、いずれも「自粛ムード緩和」「首都圏観光客の近場志向」を要因に挙げている。
- ・ 一方、団体ツアー客減少の影響を受けた「**身延山久遠寺**」や、不景気・消費落ち込みの傾向に打撃を受けた物販関係施設（「**塩の華**」、「**道の駅とみざわ**」）など、社会情勢がマイナス面に作用した施設も見られた。

### 【峡 北】

- ・ 峡北圏域の対象施設等に係る観光客数は、前年比 101%と微増となった。
- ・ 観光客数の伸びを確保した施設では、増加要因として自助努力や訪問客確保のための工夫を挙げるところが目立った（①「**ゆーぶるにらさき**」：休館日を設けず重点営業 ②「**県フラワーセンター**」：新聞 15 段広告の効果 ③「**道の駅はくしゅう**」：名水の無料提供と安全安心な野菜で高評価定着）。また、安定した顧客層をもつ公共温泉施設についても堅調に推移した。

### 【富士・東部】

- ・ 富士・東部圏域の対象施設等に係る観光客数は、前年比81.9%と減少となった。
- ・ この時期のイベントとして定着した花をテーマにしたイベントが、例年より開花が遅れたことから、昨年並みの入り込みを確保できなかった。
- ・ また、「**道の駅富士吉田**」「**郡内地場産業振興センター**」などの物販関連施設で苦戦を余儀なくされたほか、震災のためイベントを自粛中止とした「**山中湖花の都公園**」でも減少となった。